

世界文学全集 II-14

ジ ョ イ ス

ユリシーズ

II

丸谷才一 永川玲二 高松雄一 訳

河 出 書 房

世界文学全集 H-14 ジョイス H



© 1978

編集委員

阿部知二 伊藤 整
桑原武夫 手塚 富雄
中島 健蔵

昭和39年 11 月10日 初版発行

昭和55年 2 月28日 16版発行

訳	者	丸 永	谷 川	才 玲	一 二
発	行	高 清	松 水	雄 勝	一
印	刷	内 海	精 弘		
装	幀	原			
印	刷	・内 海 印 刷 株 式 会 社			
製	本	・小 泉 製 本 株 式 会 社			

発行所 東京都渋谷区 千駄ヶ谷2-32-2 株式 河出書房新社

(404) 1201 営業
(404) 8611 編集
振替口座 東京 0-10802

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

定価は帯にあります

目 次

ユリシーズ II

第二部 つづき

13	ナウシカア		六
14	太陽神の牛		五三
15	キルケー		一〇一

第三部

16	エウマイオス		二五四
17	イタケー		三一九
18	ペネロペイア		三九二

年譜	四六〇
登場人物一覽表	卷末一

ユ
リ
シ
ー
ズ
Ⅱ

主要人物

レオボルド・ブルーム 愛称ボールディ。ダブリンの新聞「フリーマン」の広告取り。ユダヤ人。この日（一九〇四年六月十六日）の夕方、バーニー・キアナンの酒場を出た彼は、午後八時ごろサンディマウントの浜辺で休む。「長い一日だった。マーサ、入浴、葬式、鍵（ハス・ロック）の家、博物館の女神たち、ディーダラスの歌。それからあのキアナン酒場の騒がしい男。酔っぱらいのほら吹きども。」しかしこの三十八歳の平凡な市民の一日は、じつはまだ終わっていない。夜の闇が訪れることの遅い北国の初夏の、海辺の黄昏のなかで、彼は美少女ガーター・マクダウエルを見かけ、彼女の姿に心うばわれながら手淫をおこなう。やがて彼は、マイナ・ピュアフ

・イ夫人が出産のため入院している産科病院に彼女を見舞い、ステイヴンやその友人の医学生マリガンなどの酒宴に加わる。宴が果てると、泥酔したステイヴンのあとを追って夜半マボット・ストリートへとおもむく。淫売窟での彼の幻想。彼はベラ・コウエンの営む娼家で、酔いつぶれているステイヴンを発見する。そして、イギリス兵カーおよびコムトンと路上で喧嘩しているステイヴンに、十年前になくなった息子ルーディの姿を見出だして彼を助け、いっしょに馱者溜りで休んだのち、ステイヴンを伴って帰宅するのだが、ステイヴンは泊ってゆけという彼の熱心なすすめを断って夜の闇に消えてゆく。そして今ブルームは「休息して

いる。」なぜなら「彼は旅をした」から。彼は今「暗い寝床へゆく道すがら」にある。しかし……「どこへ？」

スティーヴン・ディーダラス ダブリンの文学青年。二十二歳。産科病院からパーク酒場へまわったスティーヴンの一行はもうだいぶ酒がまわっている。彼とマリガンとの仲は氣まづくなっている。彼はもうマーテロ塔へは戻らない決心をして、友人リンチといっしょに淫売窟マボット・ストリートへと向う。母の臨終の願いを拒否したための「内心の呵責」は彼を離れない。ベラ・コウエンの家で泥酔しているときも、亡くなった母の幻影を見て恐怖に襲われる。そしてブルームはこの若者に失われた息子を見出だすのだが……

メアリアン・トウィーディ・ブルーム 愛称モリー。レ

オボルドの妻。ジブラルタル生れ。歌手。三十四歳。彼女には数多くの男との関係が過去にあったが、この日も陽気な伊達男、ブレイゼズ・ボイランと姦通した。彼女と夫とのあいだには、もうずいぶん長いあいだ性的な交渉がない。深夜、彼女は、顔をあわせなかった若い来訪者スティーヴンと親しくなることを夢想し、ブルームの結婚申し込みにイエスと答えたときの模様を回想する。「そしてあたしはまずかれをだきしめイエスそしてかれをひきよせかれがあたしのちぶさに……」だが、眠りにおちる直前の彼女の意識にとって、「彼」とは果してブルームなのだろうか？ それは、ブルームをもボイランをもスティーヴンをも含む、普遍的な「男」そのものではないだろうか？

第二部

つづき

夏の夕暮はその神秘的腕に世界を抱擁しはじめていた。遙か西のかたに太陽は傾き、つかの間にうつろいゆく今日一日の名残りの夕映えが立ち去りかねて、いとおしげに残照を投げかけています。海にも浜辺にも、昔ながらに湾の水を守って傲然と立つ懐かしのホウス岬にも、サンディマウント海岸の藻に覆われた岩にも、さらにはひとときわ輝かしく、ひそやかに佇む教会の上にも。

「海の星」と呼ばれるこの教会からは、たえず清純な光をかかげて、暴風に弄もてあそばれる人間の心に永遠の灯をともす聖母マリアへの祈りの声が、ときおり静寂のなかに流れ出ていました。

三人づれの少女が岩に腰をおろして、暮れなずむ風景と、まだ冷えこむほどではないさわやかな風を楽しんでいます。おりあることに彼女たちはこの気持のよい場所によって来て、きらめく波のほとりで、くつろいだおし

やべりに興じ、女らしい話題にふけるのです。エディ・ボードマンは乳母車に赤ちゃんをのせ、シシー・キャフリーのほうは、捲毛の頭に帝国軍艦ベルアイルという文字のついた水兵帽をかぶって水兵服を着こんだ二人の弟、トミーとジャッキーを連れて来ていました。キャブリー家のトミーとジャッキーは四歳そこそこの双生児ふたごで、ときにはひどくはしゃぎまわって手がつけられないこともありますけれど、でもこのおちびさんたちの晴れやかな顔と可愛いしぐさにはみんなつい負けてしまうのです。シャベルとバケツを持った二人は砂まみれになって、いかにも子供らしくお城を作ったり、色のついた大きなボールで遊んだりして、時の経つのも知らぬげに楽しんでいきます。かたわらでエディ・ボードマンが乳母車のなかのむっちりした赤ちゃんを前後にゆすぶってやると、そのたびに幼い紳士はいかにも嬉しそうな声をあげます。彼はまだ生後十一か月と九日、よちよち歩きのおちびさんですが、そろそろ赤ん坊らしい片言がしゃべれるようになっていきます。シシー・キャフリーは赤ちゃんの上に身をかがめて、そのふくらした小さいほったと、下顎あごの愛くるしいくぼみをくすぐりました。

——ねえ、赤ちゃん、とシシー・キャフリーは言いま

した。おっきな、おっきな声で言つてごらん。お水ちうだい、つて。

すると赤ん坊は廻らない舌で彼女の言葉を真似まねした。

——おみじゅ、じゅう、じゃい。

シシー・キャフリーはおちびさんを抱きしめました。なにしろ彼女は大変な子供好きで、病気でむずかるときの子供の世話も心得たものです。シシー・キャフリーが彼の鼻をつまんでやって、金いろのシロップをかけた黒パンのきれをおあがりなさいと言えば、トミー・キャフリーもおとなしくひまし油を飲んでしまうのです。なんという見事なあしらい方でしょう！ でもこの赤ちゃんは本当に手のかからない子で、新しいしやれた涎よだれかけをした姿はまるで可愛い天使です。シシー・キャフリーはあのフローラ・マクフリムジーのような、美しさを鼻にかけている自堕落な娘では決してありません。世にも珍しいほど氣立てのよい少女で、ジブシーみたいな眼には絶えず笑みをたたえ、熟した桜桃さくらんぼのように紅い唇を開けばお茶目な言葉がとび出します。本当に愛らしい少女でした。エディ・ボードマンもやはり小さな弟の珍妙な言葉を聞いて笑い出しました。

だがちょうどそのとき、トミー坊やとジャックキー坊やとの間に小さな争いが起りました。男の子はやっぱり男の子で、この双生児ふたりもそうした黄金律の例外ではなかったのです。いさかいの種はジャックキー坊やが築いた砂のお城で、トミー坊やはそれにマテロ塔にあるような正面扉をつけるという乱暴な建築学的改良を主張します。トミー坊やが頑固ならジャックキー坊やのほうもそれに劣らず意地っぱりで、どんなにちっぽけなアイルランド人でも家庭では一国一城のあるじだという諺ことわざどおり、ジャックキーは怨みかさなる相手に襲いかかりました。そのあげく、攻めるつもりトミーが潰滅つぶれしただけではなく（語るも悲しいことながら）狙われていたお城までが潰滅しました。戦いに敗れたトミー坊やの泣き声が姉さんたちの注意をひいたのは当然のことです。

——こつちへおいで、トミー、と彼の姉さんはきつい口調で呼びつけました。ぐずぐずしないで！ それからジャックキー、あなたもしょうのない子ね、可哀そうにトミーを砂のなかに突きとばすなんて、見てらっしゃい、今にひどいから。

溢れんばかりの涙で眼を曇らせて、トミー坊やは姉さんの言いつけに従いました。というのも、この二人の子

供にとって姉さんの言いつけは至上命令だからなのです。敗北した彼の姿は実際みじめでした。小さな水兵帽もおズボンも砂まみれです。でも人生の小さな争いをおさめることにかけては、シシー・キャフリーは年に似合わず熟練者ですから、坊やの小ぎれいな服についた砂を手ぎわよく一粒のこらず払い落しました。それでも彼の青い眼にはとめどなく湧き出る熱い涙がきらめいていましたので、彼女は慰めのキスで彼の傷ついた心をしずめ、張本人のジャッキ―坊やに向って拳を振って、いまにつかまえた承知しないからと勢いすさまじく睨みましました。

——意地わるのいじめっ子！ と彼女は叫びました。

彼女は小さな水兵さんを片腕に抱いて、如才なくごきげんをとります。

——お利口さんのお名前は？ パタランクリームだったかな？

——坊やのいいひと誰かしら？ とエディ・ボードマンが言いました。シシーがあんたのいいひとなの？

——ちあう、とトミーはなみだ声で言いました。

——エディ・ボードマンがあんたのいいひと？ とシシーが訊ねました。

——ちあう、とトミーが言いました。

——ああそうなの、とエディ・ボードマンは近視の眼をいたずらっぽく光らせ、とげのある口調で言いました。トミーのいいひとと判ったわ、ガーティがトミーのいいひとなのね。

——ちあう、とトミーは今にも泣き出しそうに言いました。

まるで母親のようによく気がつくシシーはすばやく気配を察して、エディに耳打ちしました。この子を紳士たちの眼の届かない乳母車のかげへ連れてってね、それに新しい黄いろい靴を濡らさないように気をつけてやって。

ところで、ガーティというのはいったい誰でしょうか？

仲間のそばに腰をおろし、じつと遠くのほうをみつめながら物思いにふけっているガーティ・マクダウエルは、たしかに、魅力的なアイルランド娘のなかでも稀に見る典型的な美少女でした。彼女の顔立ちが父方のマクダウエル家よりも母方ギルトラップ家の系統だと身内の人々は言うのですが、美人だという点では誰の意見も一致していません。彼女の姿はほっそりと優美で、むしろ

ひよわな少女と言えるほどですが、ちかごろ愛用している鉄剤カブセルはウイドウ・ウエルチ婦人丸薬よりも彼女にはずっと確かな効き目があつて、悩みの種だったおりのものも目に見えてすくなくなり、おかげで例の虚脱感も軽くなつてきました。白蠟のように透きとおつた彼女の顔は、象牙の清らかさに輝いて、ほとんど精霊のような趣をたたえ、薔薇のつぼみの口もとはまさにキュービッドの弓、古典ギリシアの均斉美をしのばせます。手はさながらこまやかな血管の浮き出ている雪花石膏、指はほっそりと伸びて、その白さはまさにレモン汁と高級クリームによる最高の成果ですが、寝るときに彼女がいつもキッドの手袋をはめるとか牛乳の足湯をつかうとかいうのは作り話なのです。バーサ・サプルがいつかガートイとひどい仲たがいをして、大いにふくむところがあつたとき、このたちの悪い作り話をエディ・ボードマンにしました。(親しい少女の仲でもやはり人間同士ですから、ときにはちょっとしたいざこざが起きます。)そしてバーサは、どんなことがあつてもこの話をわたしから聞いたなんて言わないでね、そんなことしたらもう二度と口をきかないから、とエディに誓いを求めました。とんでもない。真実はやはり真実として認めるべきで

す。ガートイには生れつゐての優雅さ、ものうげな、女王のような気位の高さが身に備わつていて、彼女のしなやかな手と、高いアーチをなしている彼女の土ふまずはその確実な証明なのです。もしも情けぶかい運命の神が彼女に生れながらの上流婦人の身分と、立派な教育の恩恵にあずかる機会とを与えていたら、ガートイ・マクダウエルはこの国のどんな貴婦人にくらべても少しの遜色もない淑女となり、額には宝石をいただき、きらびやかに身を装つて、彼女の意を迎えようと先を争つて彼女の足もとにひざまずく求婚の貴公子たちにとりまかれています。たことでしよう。あるいは味わえたかもしれないそんな恋愛のことを思うからでしょうか、彼女のやさしい顔立ちにはときどきいかにもどこかしげな表情があらわれ、その美しい眼に何かはかり知れない切なげな影がよぎつて、ひきこむような魅力を添えます。なぜ女性のまなざしにはこんなに魔力があるのでしょうか？ ガートイの眼は純粋なアイリッシュ・ブルーで、しつとりと艶のある睫毛と表情豊かな栗いろの眉とがそれをひきたてています。もとはこの眉毛もこれほど絹糸のように魅惑的ではなかったのです。「プリンセス」の美容欄担当マダム・ヴェラ・ヴェリテイの記事を見て、彼女ははじめて眉墨

を使つてみる氣になりました。眉墨は眼に、社交界の有名な婦人たちにふさわしいあの魅惑的な表情を与えるそのですし、たしかに使つてみただけのことはあつたのです。それから赤面癩の科学的治療法とか、身長促進法「あなたの背は高くなる」とか、顔はおきれいですがお鼻のほうは？ これはミセス・ディグナムにはうってつけよ、なにしろあんな団子鼻ですもの。それはともかくとして、ガーターの美しさにひととき花を添えているのは豊かなすばらしい髪です。くすんだ栗いろで、手を加えなくとも自然に波打っています。新月の日の縁起をかついで彼女が今朝、髪の毛を切つて形をととのえ、髪はふさふさした捲毛となつて可愛い頭のまわりにかろやかにおさまりました。彼女は爪の手入れもしました。木曜日に切ると幸福をよびます。そして今、エディの言葉聞いて、たおやかな薔薇の花のようにほのかな赤らみがわれにもあらず両頬にさしのぼつてきたとき、乙女らしくやさしいはにかみを帯びた彼女はいかにも愛らしくて、美しい神の国アイルランドにもこれほどの美少女はほかにいないと思われるほです。

どこか悲しげに眼を伏せて彼女はしばらく黙っていました。エディに何か言い返そうとしたのですが、口に出

かかった言葉をなぜか吞込んでしまつたのです。氣持としては言い返したい。しかし氣位がそれを許してくれない。愛らしい唇をちよつととがらせただけで視線をあげ、楽しげに笑つた彼女の声には、五月の朝のような若さとさわやかさがみなぎっていました。やぶにらみのエディがなぜあんなことを言つたのか彼女にはよく判っている、そう、誰よりもよく判っています。本当は恋人同士の些細な仲たがいにすぎないのに、エディつたらあたしへの彼の氣持が冷えてきたと思つてゐるんだわ。あたしの窓の下を自転車に乗つてしょっちゅう行つたり来たりする彼のことで、誰かさんがまたまたごきげんなめなのね。このところ彼は給費生試験の最中だから、お父さんの言いつけで夜は家にとじこもつて猛勉強して、高校を終えたらトリニティ・カレッジにはいって、大学の自転車部で活躍している彼の兄W・E・ワイリーみたいに医者になる勉強をするつもりですって。あたしの胸のうちなんか彼はちつとも考えてくれないのかしら、ときどき穴があいたみたいに胸が疼いて、心の髓までうつろになつてしまふ。でも彼はまだ若いし、そのうちほんとうにあたしを愛してくれるかもしれない。彼の家はみんなプロテスタントだし、あたしは(カトリック)ももちろんよく

知ってます、どなたがいちばん大切な方で、その次が聖母様、それから聖ヨセフ様で。そうは言っても彼はたしかに美青年ですし、あの鼻の形のいいことったら。それに頭のとっぺんから爪さきまで掛け値なしの紳士なんだわ。帽子をかぶっていないとき、うしろから見た頭の恰好だつて、なみの人のとはどこか違っているからすぐに判るし、街灯のところを廻るときも両手を自転車車のハンドルから離れたままだし、それにまたあの上等な煙草の香りのいいこと。そのうえ、背の高さだつて、兄さんと同じくらい。それでエディ・ボードマンは上手なあてこすりを言つたつもりなのよ、そうよ、彼がうちの小さな庭さきを自転車で行ったり来たりしないもんだから。

ガーティはあっさりした服を着ていましたが、社交界の流行に敏感な娘らしい本能的な趣味のよさがうかがわれます。というのもひょっとしたら彼がこの辺りに来ているかもしれないとかすかな予感があつたのです。エレクトリック・ブルーの小さいブラウス（レイデイズ・ピクトリアル）の予想記事によるとこの夏の流行色はエレクトリック・ブルーですから、手染めで、胸の谷間まで思ひきつてあけたV字型の切込みはいかにもあかぬけて、しかもハンカチ・ポケットがついています

（ハンカチを入れると形がくずれるので彼女はいつもそのポケットにお気に入りの香水をしみこませた綿ぎれを忍ばせています）。それにネイヴィ・ブルーの短か目のスカートは歩きやすい仕立てで、彼女のすなりとした優美な姿をよく引き立たせます。編目の粗い、粋で可愛らしい黒褐色の麦藁帽子は、罎に裏打ちしてあるエッグ・ブルーの飾紐が色どりに変化を与え、わきには同色の蝶むすびがついています。先週の火曜日には午後いっぱいつぶしてこんな飾紐を探しまわり、やっとクレリー商店のサマー・セールで思い通りの品を見つけました。すこし店ざらしの感じですが、それも眼につくほどではなく、セフィンガー（セフィンガーは約四分の三インチ）で二シリング一ペニーです。彼女は自分ひとりですべてを帽子につけました。それがかぶつて、鏡に映る美しい姿にうっとりほえみかけたときは、ぞくぞくするほど嬉しくて！そして型くずれしないようにそれを水差しの上にのせたとき、これを見たら誰かさんたちはきっと顔色を変えるだろうと思ひました。彼女の靴（エディ・ボードマンはサイズが小さいのを鼻にかけていますが、でもお気の毒なことにサイズ五番のガーティ・マクダウエルのもとにもおよびません）はいま流行の新型で爪さきはエナメル革、

高いアーチを描く甲のところに一つだけスマートな締金がついています。形のよいくるぶしはスカートのかげから完璧なプロポーションをのぞかせ、すらりとした脚は、踵のところが別編みで幅広のガーターで留めた透きとおるような靴下に包まれ、ちょうど乙女のたしなみにふさわしい程度に人の眼に触れます。下着こそはガーターの苦心のしどころですし、優しい十七歳の胸をときめかす夢とおののきを知っている人なら（ガーターはすでに十七歳に別れをつげ、再びめぐりあうことはないのです）あえて彼女を責めたりするでしょうか？ 彼女はとってもきれいな縫取りのついたよそゆきを四着、それに不断着三着と余分の寝間着を持っていて、よそゆきにはそれぞれローズ・ピンク、ベイル・ブルー、モエヴ、ピー・グリーンと別いろのリボン飾りがついています。彼女は自分で着物の虫ほしをし、洗濯屋から帰って来ると青味をかけたり、アイロンを当てたり、アイロンを載せておくための煉瓦まで持っています。だって洗濯女たちに任せたらいつ焼け焦げを作られるやら、とても信用する気になれませんか。彼女がブルーの服を着て来たのは万一の幸運に望みをかけたからで、ブルーは彼女自身の色でしかも幸福の色ですから花嫁は体のどこかにブル

ーのものをつけるしそれに先週のあの日グリーンの服を着ていたら悲しいことが起って彼のお父さんたら給費生試験の勉強のために彼を家に閉じこめてしまってもひょっとすると彼に会えるかもしれないわ今朝着替えをするとき古いほうのブロースを裏返しにはきそうになって金曜日でないかぎり裏返しにはくといいいことがあって恋人にも会えるんですって。

それなのに、それなのに！ 彼女の顔に浮ぶ思いつめたようなあの表情！ そこには絶えず心をむしばむ憂愁のかげがあります。彼女の眼には魂そのものがあらわれ、もしもいま住みなれた自分の部屋にいて一人きりで思う存分に泣いたら、涙にかきくれて心の重荷を軽くすることができたら、どんなにすばらしいことでしょう。もちろんはしたなく取乱すわけではありません、しとやかな泣き方は鏡の前で研究済みです。ガーター、君はきれいだねえ、と鏡は言います。限りない悲哀と憂愁をたたえた黄昏の蒼ざめた微光が落ちます。ガーター・マクダウエルは虚しく胸を焦がすのです。そうよ、最初から判っていたのよ、結婚を夢みるなんてどうせ自分に都合よくこしらえあげた幻なのよ。T・C・D（ダブリン市立ミセス・レギー・ワイリー）（ただのミセス・ワイリーは彼